

おびひろのこと

北海道帯広市 市勢要覧

2023



帯広市広報マスコットキャラクター

しらかんば

あおあお ひろひろ いきいき 未来を信じる帯広



帯広市は、豊かな自然に囲まれた十勝平野の中央に位置し、産業・経済、教育・文化、医療・福祉、行政などの広域的な都市機能が集積する、国内有数の食料基地・十勝の中核都市です。

近年では食や農などの地域の強みや魅力を活かし、十勝管内19市町村が一体となって進めている「フードバレーとかち」の取り組みなどを通して、新たな価値の創出に取り組む多くの挑戦者が現れ、さらなる発展の可能性が広がってきています。

令和2年2月に策定した「第七期帯広市総合計画」において、「あおあお ひろひろ いきいき 未来を信じる帯広」を将来のまちの姿として掲げました。自然や産業、困難にチャレンジする開拓者精神、人々の強い結びつきなど、これまで築き、受け継がれてきた十勝・帯広の歴史、文化を大切にし、一人ひとりが、明るい未来を信じて前向きに挑戦や行動を続ける活力ある地域社会の実現を目指し、まちづくりに取り組んでいます。



市章

両側に北海道の「北」の字と、オビヒロの「ヒ」の字を兼ねて表し、下に「口」を、中央には十勝の中心都市として飛躍を続ける帯広市を表徴して「オ」の字を図案化しています。



日本の「食」を支える。

十勝は、長い日照時間、きれいな水と空気など、食料生産に恵まれた自然環境を持ち、安全でおいしい農林水産物を生み出す、「日本の食料供給基地」といえる地域です。

カロリーベースでの食料自給率は1,100%を超え、人口約33万人の地域で約380万人分もの食料を生産しています。十勝には食品加工施設や農業系の大学・試験研究機関が集積しているほか、十勝産原料を使用した商品は国内外で高い評価を受け、まさに日本の食卓を支える地域となっています。

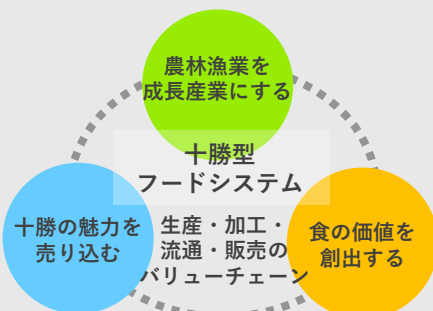
こうした地域の強みである「食と農林漁業」を柱に、まちづくりを進めていこうと、「フードバレーとがち」を旗印に掲げ、帯広市が中心となって十勝19市町村で取り組んでいます。

日本を代表する大規模畑作酪農地帯・食料供給基地という背景を活かした、生産・加工・流通・販売が結びついた十勝型のフードシステムを、オール十勝でつくりあげていきます。

安全・安心な農林水産物を生産し、地元で加工することで付加価値をつけ、十勝のブランド力を活かし、国内外の販路拡大や魅力の発信を進めていきます。

フードバレーとがちでアジアの拠点を目指す

フードバレーとがちでは、十勝の優位性を活かすための方向性として、3つの柱を進めています。フードバレーとがちを推進し、国内のみならず国外市場にも目を向けながら、十勝はアジアの食と農林漁業の集積拠点を目指していきます。



フードバレーとがちの3つの柱



おびひろは

1

開拓を支えたパートナー



夢を抱えてやってきた北の大地

十勝の開拓は、北海道に多く見られた官主導の屯田兵ではなく、晩成社をはじめとする民間の開拓移民により進められました。

そのとき、農耕馬として人の暮らしと開拓を支えたのが「ばん馬（ばんば）」と呼ばれる馬たちでした。

馬文化が受け継がれ生まれた、 世界で唯一の「ばんえい競馬」

体重1トンを超える馬が重りを乗せた鉄そりを引いて直線コースで力とスピードを競う、ばんえい競馬。今は帯広でしか開催されていません。

開拓時代の農耕馬が現代のレースへと受け継がれ、今では北海道遺産として、人々に感動を与えています。

森を育てきた街

森で街を囲んだ「ウィーンの森」をモデルに、昭和50年から帯広の森づくりが進められてきました。市民自らの手で植樹し、育まれてきた雄大な森は世界的にも珍しく、令和元年には、アジアの優れた景観を国連などが表彰する国際的な賞「アジア都市景観賞」を受賞しました。

総面積406.5haを誇る帯広の森は、現在、憩いの場や学習の場、スポーツの場などとして、多くの市民に親しまれています。

2

森と共に暮らす



おいしい水

3



帯広のうまさ水にあり

おびひろの水道水は、国の水質調査で清流日本一に過去8回輝いた札内川の伏流水を原水としており、「おいしい水道水の都市」にも選ばれるなど、水のおいしさが全国的に認められています。

癖が無く口当たりがまろやかであるため、料理や食材の味を引き出してくれます。

こんなところ



4

明るく、おいしく

十勝の気候がもたらす恵み

十勝は、年間を通じて晴天の日が多く、特に秋から冬にかけての晴天は「十勝晴れ」と呼ばれています。

夏の気温は30°C以上、冬は氷点下20°C前後になり、四季の変化に富む地域ですが、昼夜の寒暖差も大きいため、作物の糖度に良い影響を与えています。

また、十勝は日本を代表する小麦の産地であり、十勝産小麦を使ったパンやピザを提供する店が数多くあるほか、砂糖の原料となる甜菜（てんさい）をはじめ、牛乳やバターなどの素材も揃うため、おいしいスイーツを手軽に楽しむことができます。

挑戦する気風

約140年前、十勝・帯広を開拓した民間の開拓移民は、大きな夢とチャレンジ精神を持っていました。その開拓者精神は、今でも脈々と受け継がれ、ここ十勝に根付いています。

近年は「とかち・イノベーション・プログラム」を通して、「起業したい」「新しい価値を生み出したい」と志向する人を、地域で応援しています。

5

開拓者精神が宿る風土



いい湯あります

6



地域に溶け込んだ温泉

多くの温泉施設があり、観光客はもとより、日々、多くの住民にも親しまれています。

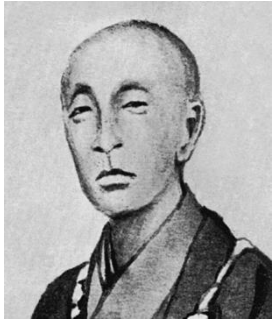
泉質もモール温泉（北海道遺産）からナトリウム温泉、アルカリ単純泉など、多岐にわたっています。

おびひろ の沿革

蝦夷地（今の北海道）では、先住民のアイヌの人たちが川沿いに集落をつくり、狩猟、採集、交易を中心に自然と共生する独自の文化を築いていました。帯広の語源は、アイヌの人たちがこの地を“オペレペレケブ”（河口がいくつにも分かれている川）と呼んでいたものが転訛（てんか）したものとされています。



帯広伏古コタンの家屋



北海道の名付け親・松浦武四郎と探検調査記録の「十勝日誌」

江戸時代の初期、アイヌと交易を行うため十勝場所が設けられ、幕末には、それまでの松前藩の支配から、幕府の直接支配となりました。この時期、次第に蝦夷地の調査が進められるようになり、探検家「北海道」の名付け親でもある松浦武四郎が、「十勝日誌」など探検調査記録を残したことで、十勝川流域の原野が肥沃（ひよく）で農業適地であることが広く知られるようになりました。



開拓の祖・依田勉三

明治2年、明治政府は蝦夷地を北海道と改め、開拓使を設け、十勝場所は7郡からなる十勝国となりました。北海道の多くの地域が官主導の北方の警備と開拓を担う屯田兵による開拓であったのに対し、帯広の本格的な開拓は、明治16年、開拓の先駆者である依田勉三翁が、静岡県西伊豆の松崎町から民間開拓団体・晩成社の一行27名を率いて入植したことが始まりです。その後、富山、岐阜など全国各地からの入植者により、十勝・帯広の開拓が進められてきました。



明治38年 鉄道開通、一番列車帯広停車場に着く

明治19年、明治政府は北海道庁を設置し、明治26年にアメリカ合衆国から学んだ殖民地区画制を基に、格子状の市街地区画を設計し、現在の都市計画の原型となりました。その後、当時下帯広村と呼ばれた帯広に河西外二郡各村戸長役場が置かれ、明治35年の二級町村制により十勝で唯一の町となりました。

そして明治40年までに、釧路、旭川までの鉄道が敷設され、十勝の農産物集散市場として産業・経済はもとより、教育文化などの機能充実とともに発展を続け、大正4年に一級町村制が施行されました。

大正時代には農業を基盤とする地域社会が確立し、その後、昭和8年に道内7番目の市となり、昭和32年、川西・大正両村と合併し、わが国を代表する大規模農業地帯の中心都市として発展を続けています。

昭和34年、全国に先駆けて総合計画を策定して以来、都市基盤・住環境の整備を進めるとともに、緑の工場公園として工業団地造成、帯広の森構想などの事業に着手し、昭和53年には、人口15万人に達しました。



昭和32年 合併記念パレード

昭和56年、新帯広空港の開港、国鉄石勝線の開業など、広域交通体系の整備が相次ぎました。昭和57年には開基100年市制施行50年を迎え、21世紀のまちづくりを展望する開拓2世紀に踏み出しました。



昭和56年 新帯広空港開港



平成8年 駅南北の利便性が増した鉄道高架

平成5年には、地方拠点都市整備法に基づく第1次指定地域として帯広市ほか音更町、芽室町、幕別町が帯広圏として指定され、平成8年には待望の鉄道高架が開通しました。

平成19年、これまで帯広、旭川、北見、岩見沢の4都市で開催していた「ばんえい競馬」は、帯広市単独の「ばんえい十勝」として新たにスタートしました。平成21年、国内2例目となる屋内スピードスケート場、「明治北海道十勝オーバル」がオープンしました。

平成22年には「人と環境にやさしい 活力ある 田園都市 おびひろ」の実現を目指し、本市の今後10年間のまちづくりの指針となる第六期帯広市総合計画を策定。平成23年、「十勝定住自立圏」形成協定を締結するとともに、「北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区」に指定され、平成24年には開拓130年市制施行80年を迎え、記念事業として市民ハーフマラソン「2012フードバレーとかちマラソン」を開催。

平成25年、帯広市と十勝18町村は、国の「バイオマス産業都市」に、全国で第1号として選定されました。



平成24年 第1回目のフードバレーとかちマラソン



平成30年 バスターミナルおびくる供用開始

平成26年には、地方版成長戦略とも呼ばれる「地域活性化モデルケース」に帯広市の提案が選ばれました。平成28年、大規模な災害や救急需要の増加などに対応するため、十勝19市町村が共同で消防業務を行う「とかち広域消防局」の運用を開始しました。また、十勝18町村と一丸となって更なる飛躍を目指し、第2期十勝定住自立圏共生ビジョンを策定しました。

平成29年、とかち帯広空港に新旅客ターミナルビルが完成し、国内線と国際線の供用が可能となりました（令和元年に旅客数2000万人に到達）。平成30年、帯広駅バスターミナルは立て替えられ、バス待合所だけでなく観光情報発信拠点として生まれ変わりました。

令和2年には、活力ある地域社会の実現を目指して「あおあおひろびろ いきいき 未来を信じる 帯広」を将来のまちの姿とした第七期帯広市総合計画を策定しました。

令和3年、とかち帯広空港は、北海道内7空港（新千歳・稚内・釧路・函館・旭川・女満別・帯広）の一括運営委託事業の受託者「北海道エアポート株式会社」による運営を開始しました。

令和4年には開拓140年市制施行90年を迎え、記念事業として百年記念館での企画展などを実施しました。また、大空地区に大空小学校と大空中学校を統合した、大空学園義務教育学校が開校しました。

令和5年には全国高校総体が36年ぶりに北海道で開催され、帯広市では、女子サッカー、剣道、アーチェリーの大会が行われます。



令和4年4月 大空学園義務教育学校開校

おびひろ の位置



北は大雪山系、西は日高山脈に囲まれた広大な十勝平野の中央部に帯広市は位置しています。

面積は619.34km²で、市街地は北に集中し、南は大規模畑作地帯が続いています。澄んだ青空、雄大な大地に恵まれたまちです。

	面積(km ²)	構成比/対全国
帯広市	619.34	0.16%
十勝	10,831.55	2.87%
北海道	83,423.87	22.07%
全国	377,973.56	—

市役所の所在地	080-8670 北海道帯広市西5条南7丁目1	
市役所の位置	北緯42度55分27秒 東経143度11分47秒	
帯広市の位置	東端	北緯42度45分47秒 東経143度16分6秒
	西端	北緯42度44分52秒 東経142度41分13秒
	南端	北緯42度36分53秒 東経142度54分2秒
	北端	北緯42度57分10秒 東経143度7分50秒
	標高	38m(帯広測候所)

令和5年1月現在 (北方領土を含む、国土地理院)

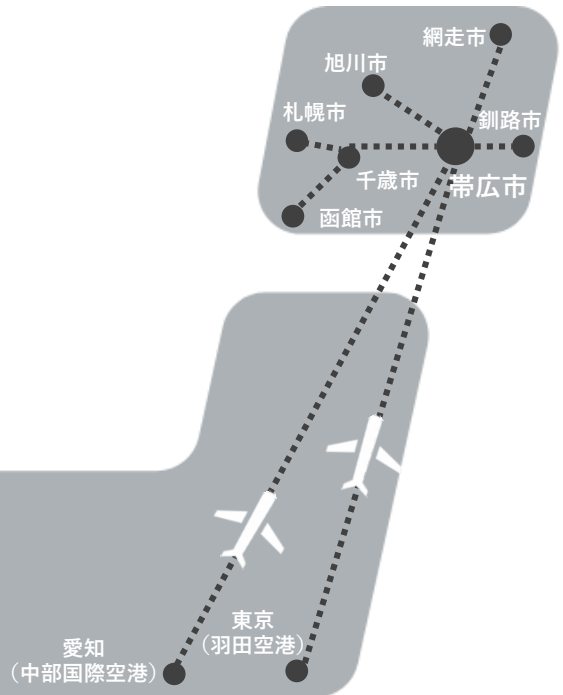
(令和5年1月 国土地理院)

札幌ー帯広	3時間	約210km
千歳ー帯広	2時間15分	約160km
釧路ー帯広	2時間5分	約120km
網走ー帯広	3時間30分	約190km
旭川ー帯広	3時間30分	約180km

札幌ー帯広駅	2時間30分
新千歳空港ー帯広駅	2時間
釧路ー帯広駅	1時間30分
旭川ー帯広駅	3時間55分
函館ー帯広駅	5時間20分

札幌ー帯広	3時間20分
旭川ー帯広	3時間45分
新千歳空港ー帯広	2時間30分
釧路空港ー帯広	2時間

羽田ーとちか帯広	約1時間30分
1日7往復運航	
(JAL4往復、AIRDO3往復)	
中部(名古屋)ーとちか帯広	約1時間45分
毎週4往復運航 (JAL) ※8月のみ	
【令和5年6月現在】	



とちか帯広空港には、日本航空(JAL)とAIRDOの2社が運航し、空港からJR帯広駅までの所要時間は車で約30分です。札幌市とはJRや都市間バスで結ばれています。



おびひろ の気象

冷涼な気候で、降水量が少なく、年間の晴天日数の多さは全国でも有数です。

夏の最高気温が30度以上、冬の最低気温が-20度前後になり、寒暖の差が大きく、四季の変化に富む地域です。

● 令和4年月別気象概要 (気象庁 令和4年)

月	降水量 合計(mm)	気温(°C)			平均湿度 (%)	日照時間 (h)	雪(cm)		
		日平均	最高	最低			降雪		最深積雪
							合計	最大/日	
1	75.5	-6.5	3.8	-19.7	72	188.7	80	30	62
2	19.5	-4.7	7.5	-16.6	69	210.2	27	16	60
3	50.0	1.2	16.0	-9.5	69	211.0	51	21	54
4	2.0	8.3	25.5	-2.5	59	257.9	--	--	--
5	59.5	12.9	27.4	1.1	73	226.8	--	--	--
6	110.0	15.9	32.9	6.7	84	129.5	--	--	--
7	156.5	21.2	33.7	14.0	86	107.1	--	--	--
8	265.5	20.5	31.2	12.5	85	104.5	--	--	--
9	72.0	17.9	31.8	5.1	80	153.5	--	--	--
10	93.5	10.8	29.7	-2.1	76	152.2	--	--	--
11	21.0	4.9	17.2	-4.0	72	153.8	--	--	--
12	86.5	-3.4	5.5	-18.2	66	193.5	53	27	42

● 年次別気象概要 (気象庁 令和4年)

● 気象極値 (気象庁 令和4年)

項目	極値	記録日
降水量 (日)	174mm	1988/11/24
降水量 (h)	56.5mm	1975/7/17
最高気温	38.8°C	2019/5/26
最低気温	-38.2°C	1902/1/26
最大瞬間風速	32.3m/s	2002/10/2
降雪量 (日)	102cm	1970/3/16

年	降水量 合計(mm)	気温(°C)			平均湿度 (%)	日照時間 (h)	雪(cm)		
		日平均	最高	最低			降雪		最深積雪
							合計	最大/日	
平成29	892.5	7.2	37.1	-22.1	69	2181.9	211	28	63
30	1107.0	7.5	34.5	-21.3	73	1986.9	238	47	106
令和元	778.0	7.9	38.8	-24.5	72	2152.6	111	22	33
2	716.0	8.1	35.8	-22.4	74	2011.7	185	28	78
3	1002.5	8.2	37.1	-21.5	74	2085.0	182	39	67
4	1011.5	8.3	33.7	-19.7	74	2088.7	161	30	62



おびひろ の歳時記



八千代牧場の入牧



白鳥の飛来

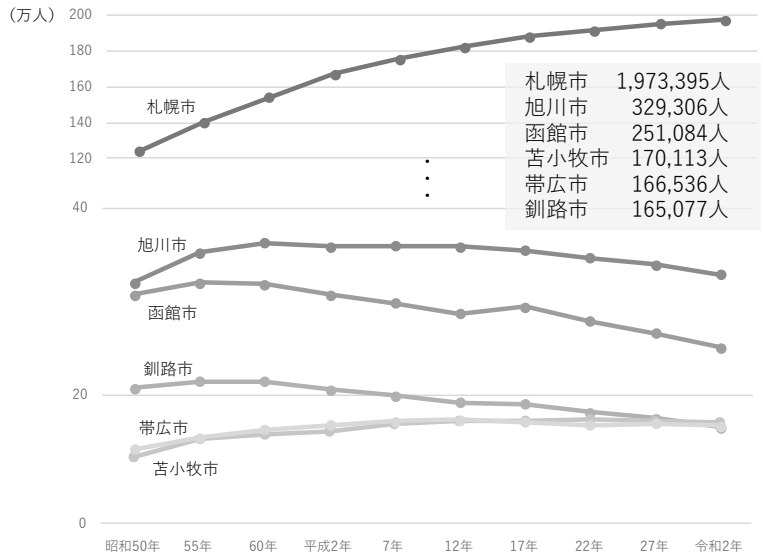


1月	・おびひろ氷まつり	9月	・とがちマルシェ ・馬鈴しょの収穫
3月	・雪解け ・福寿草の開花	10月	・小麦のは種 ・小豆の収穫 ・初霜 ・サケのそ上 ・もみじの見ごろ
4月	・馬鈴しょのは種 ・サクラの開花 ・ビート定植 ・山菜シーズン到来 (タラの芽、ギョウジャニンニクなど)	11月	・ビートの収穫 ・八千代牧場で下牧 ・初氷 ・おびひろ菊まつり ・フードバレーとかちマラソン
5月	・小豆のは種 ・八千代牧場の入牧開始	12月	・スキー場オープン ・庭木の冬囲い ・白鳥飛来 ・初雪
6月	・馬鈴しょの開花 ・ヤマメ釣り解禁		・小中学校の校庭にスケートリンクが完成 ・長期積雪
7月	・プール開き ・小豆の開花 ・小麦の収穫		
8月	・おびひろ平原まつり ・花火大会		

おびひろの人口

帯広市は、北海道で5番目に人口が多い都市（令和2年国勢調査時点）です。

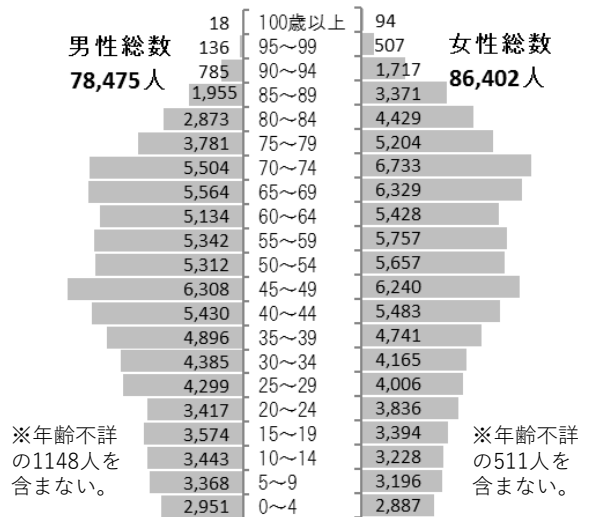
● 道内主要都市人口および推移（令和2年国勢調査）



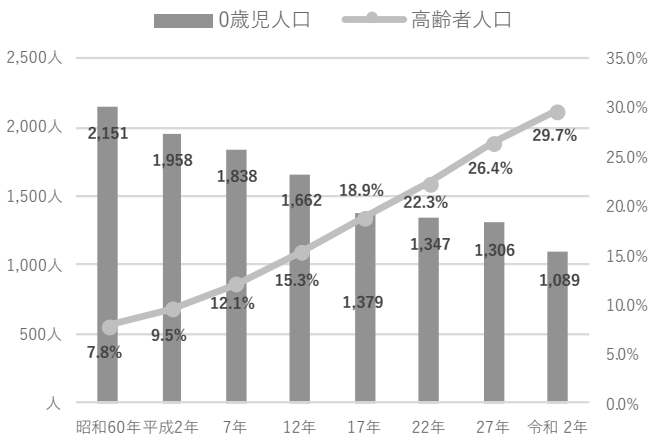
● 人口の推移（令和2年国勢調査）

年	世帯数	人口				(km ² 当たり)
		総数	男	女		
昭和45年	37,944	131,568	64,999	66,569	212.9	
50年	44,227	141,774	69,542	72,232	229.4	
55年	51,451	153,861	75,628	78,233	249.0	
60年	56,027	162,932	79,721	83,211	263.7	
平成2年	60,431	167,384	81,027	86,357	270.4	
7年	66,687	171,715	83,079	88,636	277.4	
12年	70,894	173,030	83,705	89,325	279.6	
17年	73,629	170,580	81,906	88,674	275.6	
22年	75,474	168,057	80,584	87,473	271.5	
27年	77,707	169,327	80,994	88,333	273.4	
令和2年	80,175	166,536	79,623	86,913	268.9	

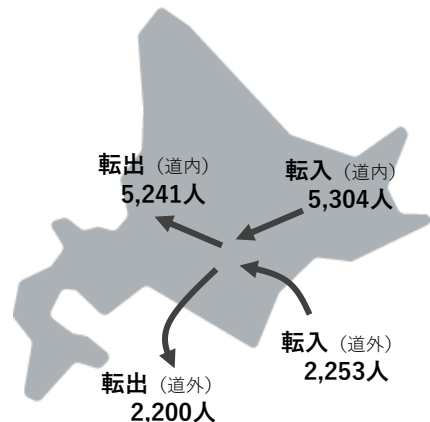
● 年齢別人口（令和2年国勢調査）



● 少子・高齢化の推移（令和2年国勢調査）



● 転入者・転出者数（市戸籍住民課、令和4年度）



● 産業別就業人口（15歳以上）（令和2年国勢調査）

総数	第1次産業			第2次産業				第3次産業					分類不能の産業	
	農林業	漁業		建設業	製造業	鉱業	サービス業	卸・小売業・飲食店	公務	運輸通信業	金融保険業			
74,554 (100%)	3,616 (4.9%)	3,604 (4.8%)	12 (0.01%)	12,675 (17.0%)	6,711 (9.0%)	5,929 (8.0%)	35 (0.04%)	54,217 (72.7%)	25,914 (34.8%)	17,771 (23.8%)	4,342 (5.8%)	4,643 (6.2%)	1,547 (2.1%)	4,046 (5.4%)

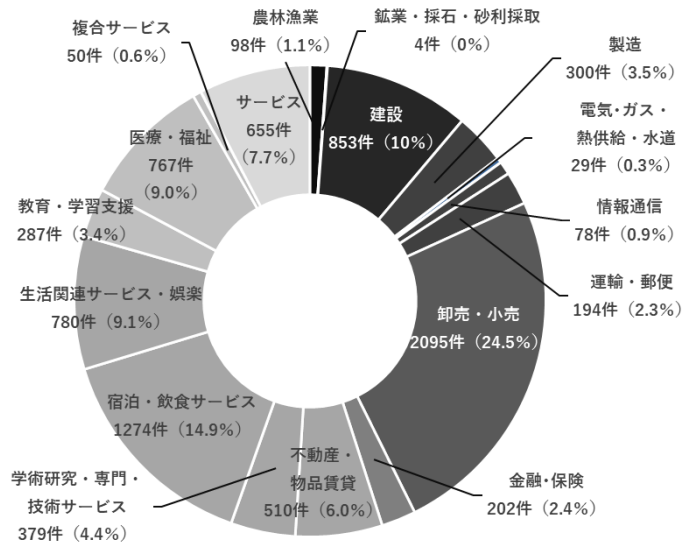
おびひろ の産業



帯広市は十勝の中心都市であり、農業を基幹産業としています。専業農家が多く、大型機械を導入した、生産性の高い大規模経営を展開しています。

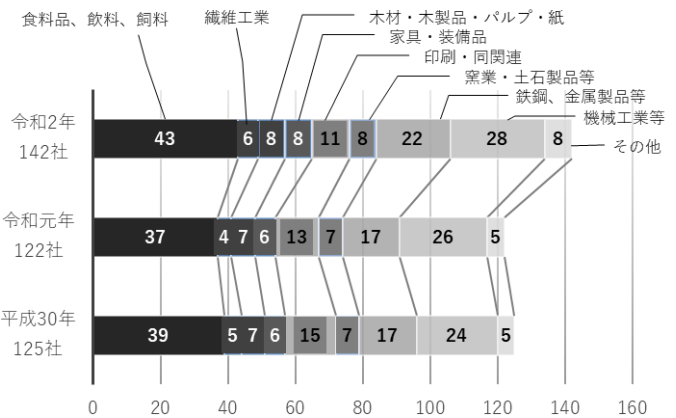
商業やサービス業などの第3次産業も盛んで、東北道の商業機能の集積地にもなっています。

● 産業別事業所数 (令和3年経済センサス-活動調査)

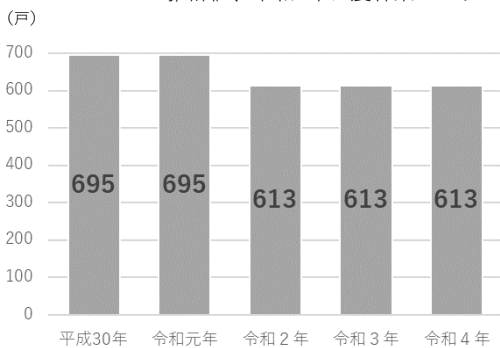


● 製造業事業所数 (令和3年経済センサス-活動調査)

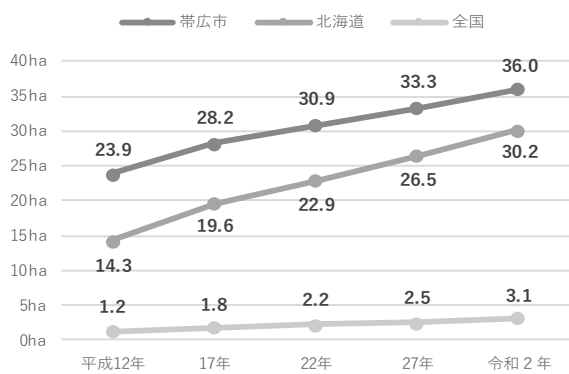
※産業別事業所数とは集計対象が異なる



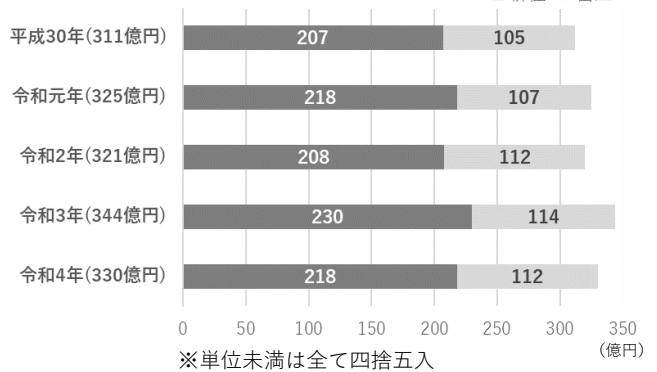
● 農家戸数 (平成30年~令和元年・3~4年は推計値、令和2年は農林業センサス)



● 平均経営耕地面積 (農林業センサス)



● 農業産出額の推移 (市農政部推計値)



● 商業の概要

(令和3年経済センサス-活動調査)

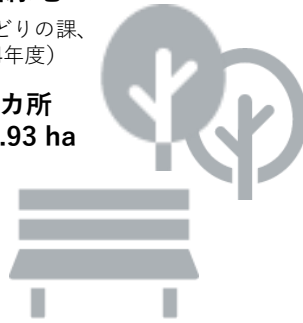
産業中分類	商店数 (件)	従業者数 (人)	商品販売額 (百万円)
総数 (卸売・小売業)	1,793	15,785	706,361
一般卸売業	554	4,907	445,454
各種商品小売業	8	587	16,286
織物・衣服・身の回り品小売業	169	699	12,404
飲食料品小売業	298	3,725	63,467
機械器具小売業	187	1,664	59,112
その他の小売業	501	3,830	95,099
無店舗小売業	76	373	14,539



おびひろ の環境

●公園緑地
(市みどりの課、令和4年度)

204カ所
761.93 ha



●上水道普及状況
(市上下水道、令和4年度)
普及率99.8%
水道管延長1,429km



●下水道普及状況
(市上下水道、令和4年度)
普及率99.1%
処理面積4,341ha

帯広市の市街地は、約400haにおよぶ森林「帯広の森」にかこまれています。(3頁参照)

●ごみの排出量 (市清掃事業課、令和4年度)

年度	総排出量(t)		資源集団回収量(t)	一般廃棄物総排出量(t)	1日1人当たりの排出量(g)
	資源ごみ				
30年度	50,038	7,360	6,961	56,999	935
元年度	49,672	7,599	6,374	56,046	921
2年度	50,007	7,865	5,954	55,961	925
3年度	49,146	7,980	5,669	54,815	909
4年度	48,543	7,950	5,246	53,789	897

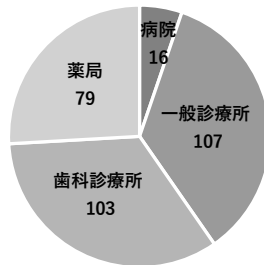


※1人1日当たりの排出量には、資源集団回収量を含む。

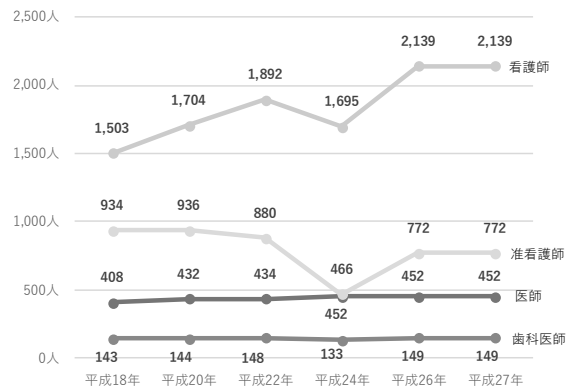
おびひろ の保健



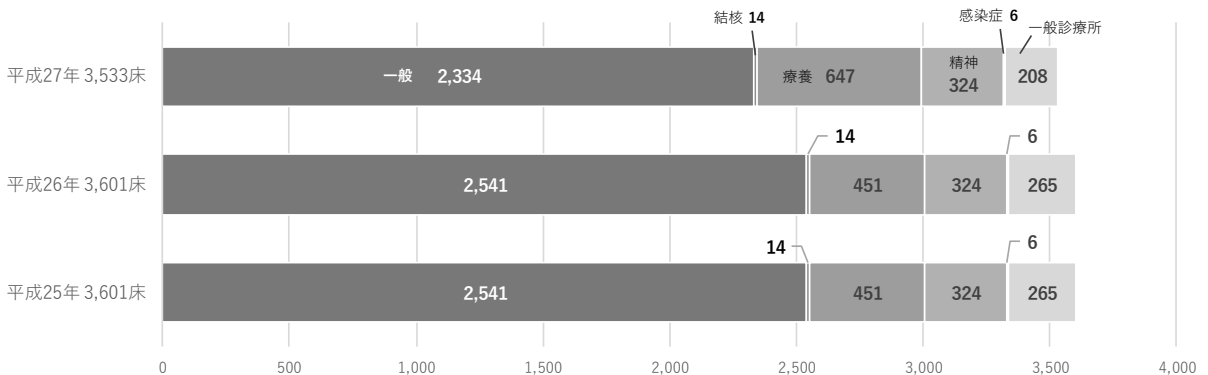
●医療施設 (平成27年10月1日現在)
(十勝地域保健情報年報 平成28年版)



●医療関係従事者数 (平成27年度末現在)



●病床数 (平成27年10月1日現在)





おびひろの福祉

● 障害者の状況 (市障害福祉課、令和4年度)

	1級	2級	3級	4級	5級	6級	合計
身体障害者手帳	2,374	990	974	1,905	472	462	7,177
	A (重度)		B (中度・軽度)		合計		
療育手帳	618		1,663		2,281		
	1級	2級	3級	合計			
精神障害者保健福祉手帳	138	1,009	730	1,877			

※各手帳を所持している人数(重複あり)

● 生活保護 (市生活支援室、令和4年度)



● 保育所等児童数 (市こども課、令和4年度)

年度	保育所数	定員 (人)	入所申込者数 (人)	児童数 (人)	入所率 (%)
30年度	38	3,189	3,386	3,077	90.87%
元年度	38	3,219	3,556	3,139	88.27%
2年度	41	3,197	3,602	3,196	88.73%
3年度	41	3,197	3,550	3,153	88.82%
4年度	41	3,221	3,309	3,217	97.22%

※地域型保育、認定こども園含む。



おびひろの教育

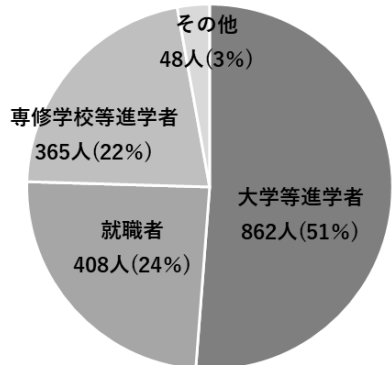
● 学校の概要 (学校基本調査、帯広畜産大学 令和4年5月1日現在)

	学校数	児童・生徒・学生数(人)		教員数(人) (本務者)	職員数(人) (本務者)	
		男	女			
小学校	25	7,336	3,772	3,564	601	77
中学校	13	3,821	1,931	1,890	315	43
義務教育学校	1	485	257	228	53	4
高等学校	8	5,036	2,551	2,485	365	94
大学	1	1,151	-	-	129	82
盲・聾・養護学校	3	248	160	88	175	34
幼稚園	13	1,618	782	836	196	77
各種学校	1	16	3	13	3	1
専修学校	7	404	80	324	48	23

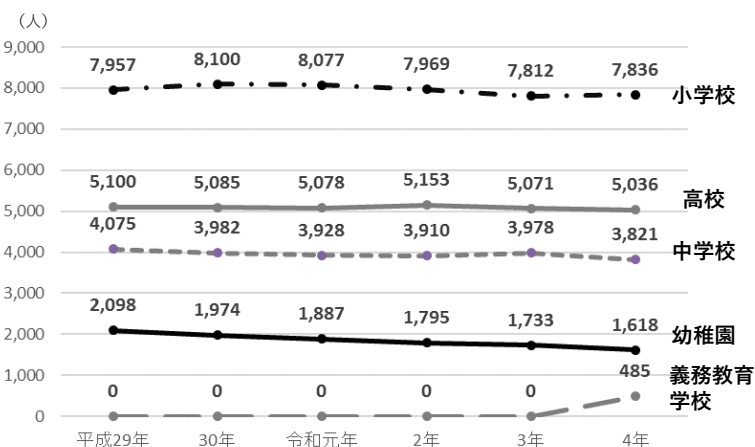
● 高校卒業後の状況

(学校基本調査 令和4年5月1日現在)

総数 1,683人



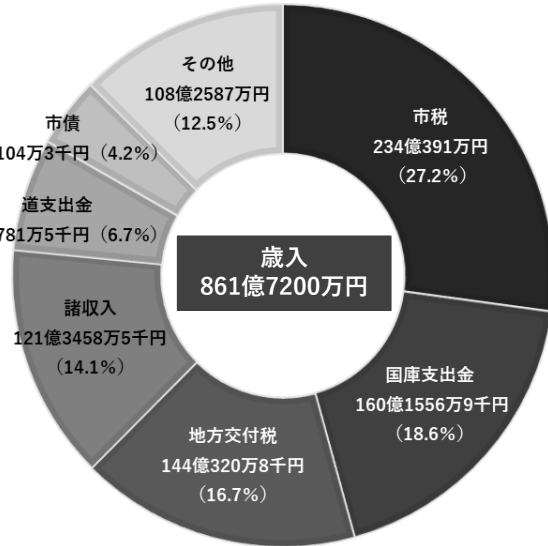
● 園児・児童・生徒数 (学校基本調査 令和4年5月1日現在)



おびひろ の財政

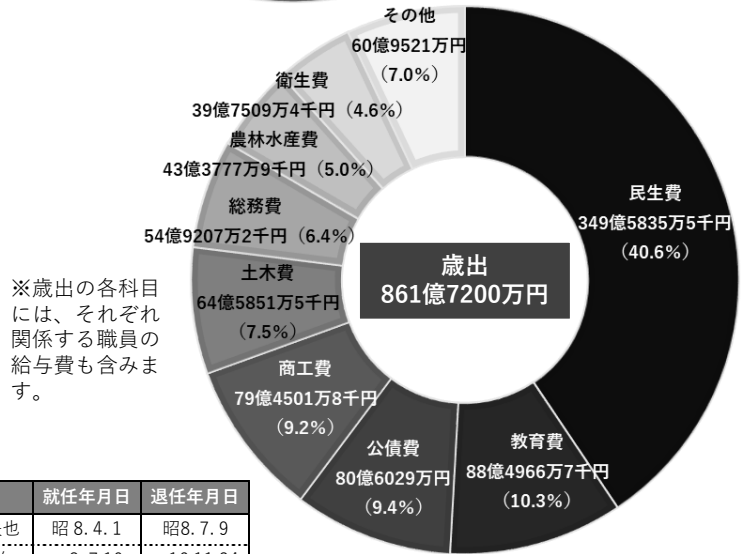


● 一般会計当初予算 (市財政課、令和5年度)



● 各会計当初予算 (市財政課、令和5年度)

会計区分	予算額 (千円)
一般会計	86,172,000
特別会計	85,496,247
国民健康保険会計	16,307,491
後期高齢者医療会計	2,807,482
介護保険会計	16,573,796
中島霊園事業会計	45,260
ばんえい競馬会計	49,736,048
駐車場事業会計	26,170
企業会計	
収入	11,907,093
支出	15,092,000
水道事業会計	
収入	5,397,176
支出	7,169,000
下水道事業会計	
収入	6,509,917
支出	7,923,000
総計	
収入	183,575,340
支出	186,760,247



※歳出の各科目には、それぞれ関係する職員の給与費も含まれます。

おびひろ の市政

● 歴代市長

歴代	氏名	就任年月日	退任年月日
市長臨時代理者	横瀬 農夫也	昭8.4.1	昭8.7.9
初代	渡部 守治	8.7.10	16.11.24
2代	橋本 東三	17.2.13	20.12.13
3代	奥野 小四郎	21.1.28	22.1.4
4代	佐藤 亀太郎	22.4.10	30.6.25
5代	吉村 博	30.8.7	49.3.4
6代	田本 憲吾	49.4.21	平2.4.20
7代	高橋 幹夫	平2.4.21	10.4.20
8代	砂川 敏文	10.4.21	22.4.20
9代	米沢 則寿	22.4.21	在任中

● 歴代市議会議員 (市議会事務局)

歴代	氏名	就任年月日	退任年月日
1代	佐藤 亀太郎	昭8.6.16	昭12.5.31
2代	佐藤 亀太郎	12.6.10	17.5.20
3代	佐藤 亀太郎	17.6.3	22.3.4
4代	志田 信弥	22.5.23	26.4.22
5代	志田 信弥	26.5.10	27.10.11
6代	柴田 幸七郎	27.10.28	30.4.30
7代	柴田 幸七郎	30.5.12	32.5.12
8代	柴田 幸七郎	32.5.12	34.4.30
9代	梶野 善映	34.5.12	38.4.30
10代	中島 武市	38.5.15	42.4.30
11代	真鍋 義秀	42.5.15	46.4.30
12代	山本 忠次	46.5.11	50.4.30
13代	柴田 政邦	50.5.13	54.4.30
14代	木ノ内 国明	54.5.8	58.4.30
15代	前川 博	58.5.17	61.2.4
16代	佐藤 温彦	61.2.6	62.4.30
17代	嶺野 侑	62.5.13	平3.4.30
18代	岡田 肇	平3.5.14	7.4.30
19代	谷内 利夫	7.5.15	11.4.30
20代	山本 日出夫	11.5.18	15.4.30
21代	鈴木 孝昌	15.5.14	19.4.30
22代	上野 敏郎	19.5.14	22.2.12
23代	石井 啓裕	22.2.22	23.4.30
24代	野原 一登	23.5.16	27.4.30
25代	小森 唯永	27.5.18	30.3.26
26代	大石 清一	30.5.14	31.4.30
27代	有城 正憲	令1.5.16	令5.4.30
28代	横山 明美	5.5.12	在任中

おびひろ の歴史

年代	主なできごと
(1800年)	<p>寛政12年 皆川周太夫、トカチ川筋を踏査。</p> <p>文化5年 トカチ場所の戸口は40部落254戸1,034人に。</p> <p>明治2年 蝦夷を北海道と改める。十勝国を創設、7郡が置かれ、この地に河西郡下帯広村ができる。</p> <p>15年 北海道開墾晩成社が静岡県伊豆国で組織される。 依田勉三・鈴木銃太郎、オベリベリ（下帯広村）を開墾地に選定。</p> <p>16年 晩成社移民団27名、オベリベリに入殖。</p> <p>19年 晩成社オベリベリに1道2橋を建設。</p> <p>21年 十勝原野を概測、帯広周辺を調査。</p> <p>24年 下帯広村を起点として十勝国の殖民地を区画。</p> <p>25年 下帯広村に三等測候所開設。帯広郵便局開局。 北海道集治監釧路分監帯広外役所を下帯広村に置く。下帯広村に官設駅通所開設。</p> <p>26年 下帯広村に河西外二郡(河東、上川)各村戸長役場設置(翌年開庁)。</p> <p>28年 釧路警察署下帯広分署開庁。北海道集治監十勝分監開庁。十勝農事試作場開場。</p> <p>29年 殖民地地区画地貸付け開始。大量移住始まる。帯広尋常小学校、十勝内陸初の学校として開校。</p> <p>30年 釧路外十二郡役所を分割し、河西外六郡役所を下帯広村に置く。河西支庁開庁。下帯広警察署開庁。</p> <p>32年 釧路区裁判所帯広出張所開庁。</p>
(1900年)	<p>33年 河西外二郡各村戸長役場から芽室外六村を分離、下帯広十一村戸長役場となる。河西税務署開庁。</p> <p>34年 下帯広十一村戸長役場から音更外二村を分離、下帯広八村戸長役場となる。</p> <p>35年 下帯広外八村を廃合、下帯広村を帯広町とし、伏古・幸震・売買・上帯広の4村と組合をつくり二級町村制施行。 帯広区裁判所開庁。</p> <p>38年 帯広・釧路間鉄道全通、帯広駅開業。十勝川に開成橋新設。</p> <p>40年 帯広・旭川間鉄道開通。帝国製麻株式会社帯広工場操業開始。</p>
(1910年)	<p>43年 帯広郵便局電話業務開始。</p> <p>44年 河西橋渡橋式。十勝公会堂落成。皇太子、行啓。</p> <p>大正3年 市街に試験電灯つく。</p> <p>4年 帯広町外4村組合を廃合、帯広町に伏古村の一部を併合して一級町村制施行、初代帯広町長奥野小四郎就任。大正村二級町村制施行。十勝姉妹職業学校創立(帯広三条高校の前身)。</p> <p>7年 町内に自家用自動車登場。</p> <p>8年 北海道製糖株式会社創立。</p>
(1920年)	<p>9年 帯広・札幌間電話回線開通。帯広町外十二ヶ村組合立十勝農業学校創立。北海道製糖工場操業開始。</p> <p>10年 帯広実業協会発足。</p> <p>12年 大谷女学校、庁立帯広中学校、帯広裁縫女学校開校。十勝鉄道株式会社創立。</p> <p>13年 川西村、大正村から分村。</p> <p>14年 帯広・土幌間鉄道開通。都市計画事業に着手。</p> <p>15年 帯広実業協会、帯広商工会に改編。鈴蘭公園開設。</p> <p>昭和4年 十勝会館竣工。緑ヶ丘公園開設。</p>
(1930年)	<p>5年 帯広・広尾間電話開通。町章制定。</p> <p>7年 帯広飛行場完成。河西支庁を十勝支庁と改称。晩成社解散。</p> <p>8年 市制施行、初代市長に渡部守治就任。</p> <p>11年 NHK帯広放送局開局。十勝農業学校、稲田に新築移転。天皇、行幸。</p> <p>12年 帯広盲学校、ろう学校創立。</p> <p>14年 帯広保健所開設。帯広商工会議所設立。</p>

年代	主なできごと
(1940年)	<p>15年 十勝大橋渡橋式。北部七三隊、帯広憲兵分隊開隊。</p> <p>16年 帯広高等獣医学校開校（帯広畜産大学の前身）。</p> <p>17年 第2代市長に橋本東三就任。</p> <p>18年 帯広市制10年奉告祭。</p> <p>19年 第一飛行師団(鎬部隊)、第七師団(熊部隊)帯広に移駐。</p> <p>20年 帯広ほか空襲。米軍進駐。</p> <p>昭和21年 第3代市長に奥野小四郎就任。</p> <p>22年 帯広営林局開庁。公民館開設。第4代市長に佐藤亀太郎就任。第1回平和祭。第一、第二、川西、清川、岩内各中学校創立。</p> <p>23年 市警察、地区警察開庁。第三中学校創立。</p> <p>24年 帯広畜産大学創立。</p>
(1950年)	<p>25年 第4回全国レクリエーション大会開催。市立図書館落成。警察予備隊帯広部隊創設。</p> <p>26年 帯広開発建設部開庁。第四中学校、緑丘小学校創立。</p> <p>27年 開基70年市制施行20年記念式典。十勝沖地震。上水道事業着手。平和博覧会開催。労働会館竣工。広野、上帯広中学校創立。</p> <p>28年 平原学園開設。北栄小学校創立。市営競馬始まる。</p> <p>29年 天皇皇后、行幸啓。自衛隊第5管区総監部創設。光南小学校創立。</p> <p>30年 第5代市長に吉村博就任。HBC帯広放送局ラジオ放送開始。市教育研究所設立。東小学校創立。帯広厚生病院完成。</p> <p>31年 渡辺女子高等学校開校（帯広北高校の前身）。</p> <p>32年 川西村・大正村、帯広市に合併。上水道第一期工事竣工。帯広ガス創立。札内橋竣工。帯広電報電話局庁舎完成。</p> <p>33年 市庁舎竣工。電話自動化。大通跨線橋竣工。白樺学園帯広商業高等学校創立。野草園開園。帯広青年会議所創立。</p> <p>34年 市立南商業高等学校開校。国体スケート大会開催。帯広市総合計画策定。下水道工事着工。柏林台団地造成着手。NHKテレビ、十勝ヶ丘から放送開始。第五中学校創立。</p>
(1960年)	<p>35年 帯広市史発刊。帯広大谷短期大学創立。</p> <p>36年 第六中学校創立。帯広「市民文芸」創刊。十勝農民会館完成。藤丸百貨店新築開店。</p> <p>37年 開基80年市制施行30年記念式典。市民会館開館。帯広工業団地造成着手。交通安全都市宣言。家畜処理場開設。帯広郵便局新局舎落成。帯広市産業開発公社設立。</p> <p>38年 国体スケート大会開催。帯広動物園開園。釧路地方裁判所帯広支部新築移転。S T V帯広放送局、H B Cテレビ開局。駅前地区都市改造事業着手。</p> <p>39年 第1回帯広氷まつり。帯広空港開港。児童会館開館。学校給食共同調理場竣工。老人福祉センター開館。道立帯広工業高校創立。</p> <p>40年 開立団地造成。帯広終末処理場竣工。帯広市ほか七町村伝染病隔離病舎組合設立。第七中学校創立。帯広市ほか七町村清掃施設組合設立。</p> <p>41年 帯広民衆駅竣工。帯広少年院開庁。農業改善事業着手。大分市と空港姉妹都市調印。帯広市の木(白樺)、花(黒ユリ)、鳥(ひばり)制定。清川、啓西小学校創立。</p> <p>42年 勤労青少年ホーム開館。中島処理場竣工。大空団地造成事業着手。太平地区簡易水道完成。帯広市計量検査所開設。</p> <p>43年 国体スケート大会開催。帯広貨物駅竣工。帯広図書館新築移転。帯広市ヤングセンターオープン。郷土資料室を新設開館。米国スワード市と国際姉妹都市提携。</p> <p>44年 婦人センター開館。つつじが丘霊園着工。帯広市ほか十九町村高等看護学院組合発足。H T B帯広放送局開局。豊成小学校創立。帯広市ほか五町村環境衛生施設組合設立。</p>
(1970年)	<p>45年 学校給食製パン工場竣工。帯広専修職業訓練校新築移転。大正地区簡易水道通水開始。大空小学校創立。彫刻の森造成着手。</p> <p>46年 第二期総合計画基本構想策定。栄小学校創立。道立帯広柏葉高校新築。</p> <p>47年 開基90年市制40年記念式典。帯広市総合体育館開館。ヤングセンターを市に移管。市役所第2庁舎完成。U H Bテレビ開局。帯広清掃工場竣工。帯広市東明寮開館。</p>

年代	主なできごと
昭和54年	<p>48年 勤労者福祉センター開館。工芸センター開館。商品テスト室開館。帯広の森事業着手。 夜間急病診療事業実施。帯広市土地開発公社設立。駅南土地区画整理事業(第2工区)着手。 物品購入等不祥事件調査特別委員会設置。高齢者無料職業紹介所開設。</p> <p>49年 第6代市長に田本憲吾就任。帯広市交通センター(中央立体駐車場、中央バスターミナル)竣工。 第八、大空中学校創立。</p> <p>50年 おびひろっ子の家オープン。南町中学校創立。流通業務団地造成着手。</p> <p>51年 新刑務所新築移転。市立病院新築。中央公園完成。</p> <p>52年 西陵中学校創立。新帯広空港工事着手。刑務所跡地開発事業着手。</p> <p>53年 産業技術センターオープン。北海道養護学校開校。松崎町と開拓姉妹都市提携。破碎処理工場竣工。 夜間急病センター開設。鈴蘭浄苑竣工。人口15万人達成。新帯広市総合計画、基本構想策定。</p> <p>初の鉄南コミュニティセンター落成。広陽小学校創立。十勝総合食肉流通センター創立。 帯広市ほか三町十勝川流域下水道管理組合発足。大正農業者トレーニングセンター開所。 新帯広市総合計画基本計画策定。岩内自然の村農業体験実習館竣工。</p>
(1980年)	<p>55年 稲田水源地浄水施設建設工事着工。市立緑陽高校開校。広小路全がいアーケード完成。</p> <p>56年 新帯広空港開港。グリーンパーク400mベンチ完成。国鉄石勝線開業。 十勝中部広域水道企業団設立。川西農業研修センター開所。</p> <p>57年 市街地再開発ビル(ふじまるビル)オープン。北方園農林博覧会開催。市民憲章制定。 開基100年市制施行50年記念式典。帯広百年記念館開館。 新学校給食共同調理場落成。花園小学校創立。徳島市と産業文化姉妹都市提携。</p> <p>58年 帯広赤十字センターオープン。市立緑陽高校、道立に移管。啓北小学校創立。 新工業団地造成着手。(仮称)新ごみ処理場建設工事着手。公害防止センター開設。</p> <p>59年 帯広市史発刊。帯広市ほか七町村複合事務組合発足。帯広市文化スポーツ振興財団設立。 チャンネル処理センター開所。八千代農業センター開所。</p> <p>60年 氷雪の家オープン。帯広シティーケーブル開局。帯広の森体育館落成。帯広の森スピードスケート場落成。 帯広市畜産物加工研修センター完成。おびひろグリーンステージ完成。</p> <p>61年 社団法人帯広市シルバー人材センター設立。帯広市総合福祉センター開設。 社団法人帯広市観光物産振興会設立。</p> <p>62年 帯広の森アイスアリーナ供用開始。植村直己野外学校ログハウス校舎完成。公文書公開制度実施。</p> <p>63年 全国高校総体スケート競技大会開催。帯広市火葬場竣工。健康スポーツ都市宣言。帯広市民文化ホール完成。帯広郵便局新局舎落成。</p>
平成元年	<p>はまなす国体スケート大会開催。南商業高等学校新校舎完成。第四期帯広市総合計画策定。 帯広市ほか七町村複合事務組合の名称を帯広市ほか十町村複合事務組合に改称。</p>
(1990年)	<p>2年 第7代市長に高橋幹夫就任。帯広の森野球場完成。第37回国際学生会議開催。 帯広市ほか十町村複合事務組合の名称を帯広市ほか十三町村複合事務組合に改称。</p> <p>3年 核兵器廃絶平和都市宣言。道立帯広美術館開館。平原大橋・愛国大橋完成。夜間保育所開所。</p> <p>4年 市役所新庁舎完成。帯広・大阪間直行便開設。みどりいむ'92開催。開基110年市制施行60年記念式典。</p> <p>5年 釧路沖地震被災。地方拠点都市法に基づく地域指定を受ける。人口17万人到達。</p> <p>6年 帯広・名古屋間直行便開設。道立十勝圏地域食品加工技術センター開設。スピードスケートW杯帯広大会開催。 コミュニティFM2局が開局。</p> <p>7年 帯広・福島間直行便開設。北海道横断自動車道(清水～池田間)開通。とかちプラザオープン。 帯広市農業技術センターオープン。</p> <p>8年 新十勝大橋開通。帯広・仙台間直行便開設。くりりんセンター竣工。鉄道高架開通・新駅供用開始。 森の交流館・十勝オープン。帯広の森市民プールオープン。</p> <p>9年 JAL帯広・東京線就航。帯広の森弓道場・アーチェリー場完成。国道236号豊似～浦河間(天馬街道)開通。</p> <p>10年 第8代市長に砂川敏文就任。川西健康増進センター落成。新帯広市生活館(ふくろうの館)落成。 すばく帯広落成。帯広市シルバーいきいきプラザ落成。第1回十勝大平原国際クロスカントリースキー大会開催。</p> <p>11年 つつじが丘小学校創立。新消防庁舎落成。平原通商店街振興組合街路整備完成。 帯広駅北地下駐車場・駅前北交通広場完成。</p>
(2000年)	<p>12年 帯広の森テニスコート完成。すずらん大橋開通。第五期帯広市総合計画策定。 ユニバーサルデザインモデル住宅完成。中国朝陽市と国際友好都市提携。</p>

年代	主なできごと
13年	IS014001認証取得。帯広の森スポーツセンター完成。
14年	とかち青空国体スケート・アイスホッケー競技会開催。札内清柳大橋開通。開拓120年市制施行70年記念式典。
15年	帯広広尾自動車道帯広～川西間開通。駅北多目的広場オープン。十勝沖地震発生。 帯広市史（平成15年版）発刊。
16年	帯広市立病院廃止。最後となる第30回帯広の森市民植樹祭開催。初のWRC（世界ラリー選手権）開催。
17年	とかち大平原交流センターオープン。コミテ・プレニエ・フロマージュ（ナチュラルチーズ国際会議）開催。
18年	新帯広市図書館オープン。帯広市保健福祉センターオープン。十勝産業振興センターオープン。 米国マディソン市と国際姉妹都市提携。帯広広尾自動車道川西～幸福間開通。
19年	ばんえい競馬帯広市で単独開催。帯広市・川西村・大正村合併50周年記念式典。
20年	環境モデル都市認定。平和市長会議加盟。新消防署南出張所落成。 帯広・広尾自動車道の幸福～中札内間が開通。
21年	帯広市民ギャラリーオープン。帯広の森屋内スピードスケート場（明治北海道十勝オーバル）オープン。
(2010年) 平成22年	第9代市長に米沢則寿就任。第六期帯広市総合計画策定。帯広の森・はぐくむオープン。 観光交流拠点施設「とかちむら」オープン。ワールドカップスピードスケート帯広大会開催。
23年	一般廃棄物最終処分場うめーるセンター美加登(池田町)共用開始。AIRDO帯広・東京線就航。 第三中学校と第六中学校を統合し翔陽中学校を創立。定住自立圏の形成に関する協定締結。 フードバレーとかち推進協議会の設立。道東自動車道帯広-札幌間全面開通。 北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区に指定。
24年	豊成小学校新築移転。帯広市開拓130年市制施行80年記念式典。初のフードバレーとかちマラソン開催。 市民活動プラザ六中がオープン。
25年	バイオマス産業都市に全国第1号として選定。幸福駅リニューアルオープン。
26年	休日夜間急病センター移転オープン。帯広市成年後見支援センター「みまもーる」開所。
27年	新学校給食センター稼動。
28年	とかち広域消防局が業務開始。高齢者いきいきふれあい館「まちなか」オープン。
30年	帯広駅前バスターミナル「おびくる」が供用開始。十勝環境複合事務組合が十勝圏複合事務組合に統合。
(2020年)	
令和2年	第七期帯広市総合計画策定。新総合体育館「よつ葉アリーナ十勝」オープン。
3年	民間委託によるとかち帯広空港の運営を開始。
4年	大空小学校と大空中学校を統合した、大空学園義務教育学校を開校。帯広市開拓140年市制施行90年記念式典を開催。
5年	全国高校総体 女子サッカー・剣道・アーチェリーの競技大会を開催。



世帯人員
1世帯 1.8人

統計からみた 市民の暮らし

(令和4年度末の統計数値)



婚姻
1日 1.9組



離婚
1日 0.8組



出生
1日 2.7人



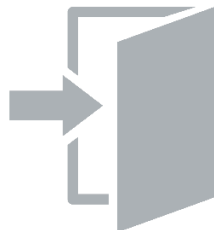
死亡
1日 6.1人



公園面積
1人に48.0㎡



医師
市民363人に1人
(医師数は平成27年の数値)



転入
1日 20.7人



転出
1日 20.4人



上水道
1人1日 274ℓ



ごみ排出量
1人1日 897g



救急車出動
1日 24.7件
(令和4年1月～12月)



交通事故
1日 0.7件
(令和4年1月～12月)



乗用車
1世帯 0.8台
(軽自動車含む1.3台)



予算(一般会計)
1世帯 1,061千円



市職員
市民126人に1人



市税
1世帯 256千円



火災
10.4日に1件
(令和4年1月～12月)



帯広市市勢要覧2023

令和5年8月発行

(編集・発行) 帯広市 政策推進部 広報秘書室 広報広聴課

〒080-8670 北海道帯広市西5条南7丁目1番地

TEL 0155-65-4109(直通)

FAX 0155-23-0156

E-mail report@city.obihiro.hokkaido.jp

URL <https://www.city.obihiro.hokkaido.jp/>

